

スタート級判定テスト

国語

解答

▼2年生用

- 1 (1) たけ U 1級 (2) た U 2級 (3) かい U 3級
(4) せいてん U 5級 (5) まいしゅう U 8級 (6) 下 U 2級
(7) 草 U 3級 (8) 書 U 4級 (9) 星 U 6級 (10) 科学 U 7級
2 (1) いたち (2) い (3) あ (4) う (5) あわの かりとり (2はU3級)

▼3年生用

- 1 (1) すう U 4級 (2) かえ U 6級 (3) にが U 9級
(4) ひら U 11級 (5) かわぎし U 12級 (6) 金魚 U 5級
(7) 自 U 7級 (8) 秋風 U 8級 (9) 度 U 10級 (10) 新館 U 12級
2 (1) 下をむいて (2) ア (3) イ (4) ア (5) ア (2はU8級)

▼4年生用

- 1 (1) みずうみ U 10級 (2) してい U 13級 (3) ふか U 16級
(4) まち U 18級 (5) しょくえん U 20級 (6) 黒板 U 11級
(7) 根 U 12級 (8) 神話 U 14級 (9) 役目 U 15級 (10) 帯 U 19級
2 (1) 小ぞう (2) ウ (3) ア (4) イ (5) ア (2はU16級)

▼5年生用

- 1 (1) ほうち U 19級 (2) まと U 21級 (3) やぶ U 24級
(4) げんぞう U 26級 (5) みき U 27級 (6) 利用 U 18級
(7) 漁船 U 20級 (8) 浴 U 22級 (9) 松 U 23級 (10) 性格 U 28級
2 (1) エ (2) ① 雪 (2) 雨 (3) ウ (4) ウ (2はU24級)

▼6年生用

- 1 (1) ゆうこう U 26級 (2) ゆた U 29級 (3) ま U 30級
(4) く U 35級 (5) ぎろん U 36級 (6) 常識 U 27級
(7) 定評 U 28級 (8) 清潔 U 31級 (9) 比 U 32級 (10) 未熟 U 34級
2 (1) ア (2) イ (3) ア (4) ウ (5) きて、おら (2はU32級)

1 — せんのかんじのよみがなをかき、ひらがなはかんじになおしなさい。

- (1) 竹うまにのってあそぶ。
- (2) いすから立ちあがる。
- (3) 貝のさしみをたべる。
- (4) えん足の日は晴天だった。
- (5) 毎週でも海水よくに行きたい。
- (6) 上としたをくみあわせる。
- (7) にわのぎっそうをむしる。
- (8) としよしの本をかりる。
- (9) ほしを見ながら帰る。
- (10) かがくてきにものを考える。

2 つぎのぶんしょうをよんでこたえなさい。

① いたちはうれしくてたまらな
 い□、はたけにまい日^{にち}いって、
 あわのせわをしておった。
 やがて、ほはきいろく^②なって、

1				
(9)	(7)	(5)	(3)	(1)
(10)	(8)	(6)	(4)	(2)
				ち

ぼったりたれてきた。ぶちつとぶくらんだあわつぶが、ぎっちりついておる。たいしたできた。「そろそろ、ねずみどんとあわのかりとりだ。」

① だれが^で出てきますか。三じで^{さん}こたえなさい。
 (2) □に入る^{はい}ことばを、きごうでこたえなさい。

③ 「やがて」の^①ことばのいみを、きごうでこたえなさい。

④ そのうちに。⑤ やつと。⑥ ずっと。
 ④ 「ほ」は、どんないろになってきましたか。きごうでこたえなさい。
 ⑦ あか ⑧ しろ ⑨ きいろ
 (5) いたちは、ねずみどんと^①いっしょになにをしようとおもいましたか。

2				
(5)	(4)	(3)	(2)	(1)

① 線のかん字の読みがなを書き、ひらがな

はかん字に直しなさい。

- (1) さん数はとくいなかもくだ。
- (2) 弟たちをいえに帰す。
- (3) とても苦いコーヒーをのんだ。
- (4) あさがおの花が開いた。
- (5) 向こうの川岸までおよいだ。
- (6) 水そうできんぎよをかう。
- (7) しぜんのおつくしさをあじわう。
- (8) さわやかなあきかぜがふく。
- (9) 教室の中のおんどをはかる。
- (10) あのたて物がしんかんだ。

② つぎの文しようを読んで答えなさい。

きゆう食の時間に、みち子さんが、

「先生、わたしは、にんじんがきらいで、食べられ
 ません。」
 と、小さな声こゑでいいました。

ただしくんも、下をむいて、

「ぼくは、たまねぎとピーマンが食べられません。」
 といいました。

すると、先生は、二人にこう話かしました。

「やさいには、体をじようぶにするえいようがた
 くさん入っています。□、だんだん食べられ
 るようにしましようね。」

「やさい」ということばは、「にんじん」、「たま

①				
(9)	(7)	(5)	(3)	(1)
			い	
(10)	(8)	(6)	(4)	(2)
			いた	す

ねぎ」、「ピーマン」などをまとめていうことばで
 す。「やさい」は、いみの広いことばで、「にんじ
 ん」、「たまねぎ」、「ピーマン」は、やさいのしゅ
 りいをあらわすいみのせまいことばです。

(鈴木敬司「広いいみとせまいいみ」より)

(1) 「小さな声こゑで」と同じような気もちがあらわれ
 ているようすを、上の文しようから五字で書き
 ぬきなさい。

(2) 「こう」がさしているのは、どこからどこまで
 ですか。記ごうで答えなさい。

ア「やさいには、く食べられるようにしまし
 ようね。」

イ「やさいには、……しましようね。」くまと
 めていうことばです。

ウ「やさいには、……しましようね。」くいみ
 のせまいことばです。

(3) □に入ることを、記ごうで答えなさい。

アしかし イだから ウところで

(4) 「だんだん」のことばのいみを、記ごうで答え
 なさい。

アものごとが少しずつすすむようす。
 イいきおいがげしいようす。

(5) 次のことばの中でいちばんいみの広いことば
 を、記ごうで答えなさい。

アくだもの イみかん ウりんご

②				
(5)	(4)	(3)	(2)	(1)

80	100点	17級
40	75点	13級
35	点	9級
スタート	級	

① 線のかん字の読みがなを書き、ひらがなはかん字に直しなさい。

- (1) 大きな湖のほとりであそぶ。
- (2) 新かんせん^①の指定せきを予やくした。
- (3) 秋が深まってきた。
- (4) にぎやかな街の中を歩く。
- (5) ゆでたまごに食塩をかける。
- (6) こくばんをちゅういして見る。
- (7) 地下にしっかりとねがはっていた。
- (8) わたしはしんわを読むのがすきだ。
- (9) さい後までやくめをはたす。
- (10) 着物のおびをしめてもらう。

② 次の文章を読んで答えなさい。

ある日のこと、小ぞうは、おしろうさんにたのまれて、山へぼん花^{ばな}取りに出かけた。

「小ぞうや。おっかないものに会ったら、このおふだ^①を使え。」

出かけるときに、おしろうさんは、三まいのおふだをくれた。

小ぞうは、花を取ってはふえをふき、ふえをふいては花を取り、ずんずんと山おくへ来てしまった。

あたりを見回すと、いつの間にか日もくれて、西も東も分らない。

「どうしたらよかんべ。」^②
おろおろ道をさがしていると、向こうの方に、ぼかあつと明かりが見えた。小ぞうは、ほつとおねをな

①				
(9)	(7)	(5)	(3)	(1)
			まって	
(10)	(8)	(6)	(4)	(2)

で、明かりをたよりに走っていくと、そこに、ぼつたり、家があった。^③

とん、とん、とん。

戸をたたくと、しらがのばあさまが出てきて、小ぞうを中に入れてくれた。

*ぼん花^{ばな}はおぼんにかざる花。(小野和子「ふえふき小ぞう」より)

- (1) この文章の主人公は、だれですか。
- (2) 「ずんずん」と同じような意味の言葉は、どれですか。記号で答えなさい。

アだんだん

イずるずる

ウどんどん

- (3) 「おろおろ」の言葉の意味を、記号で答えなさい。アどうしてよいか分からず、こまっている様子。

イにげ出したいくなるほどおそろしい様子。

ウつかれてしまって、元気がない様子。

- (4) 「ぼつたり」から、どんなことが分かりますか。記号で答えなさい。

アたたくさんの家があったこと。

イたった一けんの家があったこと。

ウ二、三けんの家があったこと。

- (5) 小ぞうの気持ちの変化について、正しいものを記号で答えなさい。

ア夢中→不安→安心

イ期待→安心→不安

ウ安心→心配→おそれ

エ不安→安心→きぼう

②				
(5)	(4)	(3)	(2)	(1)

スタート級判定テスト

国語

5年生用

11つ5点
21つ10点

20分

なまえ

テストした日 月 日

点

80	100点	25級
40	75点	21級
35	50点	17級
スタート級		

① 線の漢字の読みがなを書き、ひらがなは漢字に直しなさい。

- 駅前えきまへに自転車じてんしゃを放置ほうしする。
- 弓矢ゆみやが、的てきのまん中まんちゆうをつらぬく。
- 決勝戦けつしんせんでおしくも敗れる。
- 遠足えんそくのときにとった写真しやしんを現像げんさうする。
- 木の幹みぎによじ登のぼって遊あそぶ。
- 風かぜの力をりようする。
- ぎよせんが港みなとへ帰かえってくる。
- スポーツすぽーつの後のち、シャワーしゃわーをあびる。
- みきの直径ちゆうけい三十センチさんじゆせんちのまつ。
- 主人公しゆうじんくのせいせいかくかくを読み取る。

② 次の文章を読んで答えなさい。

冬の雪は、おもに日本海側の地方にふります。この雪は、冬の季節風である冷たい北風が、ふらせています。大陸からふいてくる風は、もともとは、かわいていますが、日本海をふきわたるあいだに、海面から水蒸気すいじゆうきをとりこみます。このとき、海水の温度は空気くわい（風は空気のながれです）よりもあたたかいので、空気は海面付近うみづきであたためられます。

この湿しじった、あたたかな空気によって雲ができ、それが日本列島の山脈さんみゃくにぶつかると、雲はさらに発達して、日本海側の地方に雪をふらせるといっわけです。気温がひくい季節には、低気圧ていきあつがおとるときにも、雨ではなく雪がふります。春先に、東シナ海に発生した低気圧が、急速に発達しながら本州の南岸ぞいをす

①				
(9)	(7)	(5)	(3)	(1)
			れる	
(10)	(8)	(6)	(4)	(2)
	びる			

すむようなときには、太平洋側の地方でも、雨が雪に変わることがあります。地上の気温が二〜三度以下ならば、ほとんどの場合、雪になります。三〜四度の場合は、みぞれになることが多く、気温がそれ以上高いと、雨になります。

（筆者注）*もとの冷たい空気にくらべると、あたたかいという意味です。

（高橋健司「あしたの天気はなぜわかるの？」より）

- ① 「山脈」の言葉の意味を、記号で答えなさい。
ア高い山。 イ切り立ったがけ。
ウふん火する山。 エつらなつた山々。
- ② 「雨が雪に変わることがあります。」とありますが、地上が次のような気温のときは、それぞれ何がふりますか。文章中から書きぬきなさい。

- ① 一度のとき
- ② 五度のとき

- ③ 次の中から、反対の意味の言葉の組み合わせとしてまちがっているものを、記号で答えなさい。
ア冷たい↑あたたかい イひくい↑高い
ウふる↑ふらせる エかわいた↑湿しじった
- ④ この文章に題名をつけるとしたら、次のどれですか。記号で答えなさい。
ア風は、どこからふいてくるの？
イ雪は、どうして冷たいの？
ウ冬には、どうして雪がふるの？

②			
(4)	(3)	(2)	(1)
		②	①

① 線の漢字の読みがなを書き、ひらがなは漢字に直しなさい。

- (1) 時間の有効な使い方について話し合う。
- (2) 詩人は表現力が豊かだ。
- (3) 絵の具を混ぜる。
- (4) 冬は日が暮れるのが早い。
- (5) なっ得がいくまで議論し合う。
- (6) じょうしきはすれに大きな犬を見た。
- (7) サービスのよさにていひようがある。
- (8) トイレをせいけつにする。
- (9) 昨年とくらべると、今年は雨量が少ない。
- (10) みじゆくさを熱意で補う。

② 次の文章を読んで答えなさい。

先生は、いろいろと作文を書く注意をしてくれた。方言はいいが、文章というものは考えの発表だから、読む人の頭のいたくなるような言ばかりの書き方はどうかと思われるし、それから、他人に対してばかというような言葉は、つっしむのが礼ぎだ、と言った。それから、たとえ四まいでも、ちゃんと組み立てを考えて、しり切れとんぼにならないように、とも注意した。

さて、おら、家に帰って、つくえによりかかって、うまい作文を考え出そうと、頭をかしげ、えん筆をかじっていた。^③こんなとき、ざっしや本から人の書いたうまいのを見付け出してつぎはぎすれば、いちばんわけないんだが、これはいつも絶対禁止だ。

「三太、めずらしく勉強かい。」
と、言つて、おかあが、お茶といりまめを持ってきてくれた。強羅さんの家の「アカ」が、強羅さん自まんのアヒルを、おもしろ半分に一わ残らずやつつけて、強羅さんに、「ばかやろう。ばかやろう。」

①				
(9)	(7)	(5)	(3)	(1)
べる			ぜる	
(10)	(8)	(6)	(4)	(2)
			れる	か

としかられたことなんか、おもしろいんだけど、どうもこの「ばかやろう。」が気になって、書きだせない。さつきからつくえに向かっているが、まだ一字も書けないんだ。

- (1) 「しり切れとんぼ」の言葉の意味を、記号で答えなさい。
ア最後まで続かず、とちゅうで終わってしまうこと。
イ初めと終わり、言っていることがちがうこと。
ウ同じことを何度も何度もくり返すこと。
エありもしないことを大げさに言うこと。
- (2) 「うまい」とありますが、ここでの使われ方と同じ使われ方しているものを、記号で答えなさい。
アこのレストランは安くてうまいという話だ。
イかれは足も速いし、水泳もうまい。
ウ遊んでくらせるようなうまい話などありはしない。

- (3) 「こんなとき、ざっしや……いちばんわけないんだが」の部分から三太のどんな気持ちに分かりますか。記号で答えなさい。
アこんな方法が使えるなら、簡単でよいのにと思っている。
イこんな方法はすくい方法で、絶対ゆるせないと思っている。
ウこんな方法も、作文を書く一つのよい方法だと思っている。
エこんな方法で一回ぐらい作文を書いてみたいと思っている。
- (4) 「気になって」とありますが、「気になる」と同じ意味を表す言葉を、記号で答えなさい。
ア気に入る
イ心をうばわれる
ウ気にかかる
エ心はずむ

- (5) この文章を二つの場面に分ける場合、後半はどこからですか。初めの五字を書きぬきなさい。(句読点も一字と数える。)

②				
(5)	(4)	(3)	(2)	(1)